

2019年度GTセミナー 第15回見守る保育リーダー研修③

2019.11.11～11.13

第144号 2019年12月2日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談やご要望に応えるコンシェルジュがいるように、保育においても様々なご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=ミマモルジュとして、保育に関するご要望にお応えしていくよう活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

第15回見守るリーダー研修

2019年11月11日～13日に第15回見守るリーダー研修が東京都中央区のコングレススクエア日本橋にて開催しました。

全国から90名程の先生方が集まり、武蔵野大学の今福先生の「赤ちゃんの社会性とことばの発達」についての講演やグループディスカッション等、3日間に渡り研修を行いました。

1日目 2019年11月11日(月)

- 10:00～ 園見学
- 13:30～ 基調講演① 藤森代表
- 15:30～ 休憩
- 15:45～ グループディスカッション
- 17:15～ 意見交換会

2日目 2019年11月12日(火)

- 9:00～ グループディスカッション
- 12:30～ 昼食
- 13:00～ 講演② 「赤ちゃんの社会性とことばの発達」
武蔵野大学講師 今福 理博氏
- 15:00～ 休憩
- 15:15～ まとめ
- 16:00 終了

3日目 2019年11月13日(水)

- 10:00～ 園見学



第15回見守るリーダー研修 まとめ

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

昨日からお疲れだと思います。私たち現場は、ずっと座っていると動きたくなるのが沙汰だと思うが、子どもたちと飛んだり跳ねたりするのが仕事ですからね。一度私の園で、電車で旅行に行った時に、同じ乗客の方から「お仕事は何ですか？」と聞かれ、なるべく保育園と言わないようにと、私のことを「部長と言え」と言っていた。その人が、「品があるみたいだけど、どんな仕事か」と聞かれ、女性ばかりだったので気になったんでしょうね。「私たちやっているのは、食べて、寝て、遊んでいるだけです」と言ったら、「それで、給料をもらっているんですか？」と言われた。私たちの仕事は食う、寝る、食べること。あと、遊ぶことが子どもにとって大事なことです。今の話を聞かれ難しいかなと思うと思います。実行機能や心の機能が言われているか。「キャリアアップはどう思うか？」と質問があったが、今行っているキャリアアップ研修は、昔の話を聞いてきているようで、ダウンしてきているように思う。研修をしている人には悪いが、リーダーとかは、キャリアがある人たちをアップするのは、キャリアを持っている人は、昔勉強してきた人たち。その時の理論と今新しい知見が出て、考えを足していくのがキャリアアップ。新しい理論を学んでいくことがキャリアアップです。免許更新もそうだが、時代によっていろいろと解説されていく。常に勉強して、新しい知見を元にしないと間違ってしまう。皆さんはないと思うが、昔は夏に陽に焼けていると、冬は風邪をひかないと言われていたが、日焼けは良くないとか、命に関わることも含め、新しい知見が出てくる。日々子どもに関する論文は200、300も出てくる中で、最近の話題の中心を学ぶことがキャリアアップ。保育は情緒論的なところが多かった。子どもが大切だからとか、子どものために誰だってやっているが、どうすることが子どものためかを考えないといけない。データなど根拠を持たないといけない。それが、一つがリーダーやキャリアを積んだ人の課題。若い人は、子どもと楽しく過ごしていればいいが、リーダーは根拠を持って行くことがキャリアアップだと思います。時間の無駄遣いなところも多い気がする。皆さんの遭遇をあげる時に、遭遇改善をするためのアリバイ作り。もう一度、研修をさせていますということなので、出ることは義務付けられている。その中で鹿児島のキャリアアップが面白かったと思います。それは私が受け持ったので、一人で15時間喋った。新しい考え方を話した。新しい知見が出てくる。皮肉にも新しい知見が新しいと言って古い。何故かというと、見直されているのが、もう一度、人類の進化や、子育てに戻ろう、考えてみようということも起きてきている。それが大きな流れ。ジャレドダイヤモンドがまた新しい本を出したが、本来の子育てを見直そうと提案している。人類は長い誕生の中から今に至るまで、子どもを産んで子育てをして、成人になることを繰り返している。その中で育児方法が生まれた。その中でもし間違った育児方法だったら、そこで滅びているはず。今に至るまで続いていることは、ある意味正しい。それがここへきて、失われていることもある。人族の中で、ホモサピエンスが生き残った中で、ホモサピエンスが全滅するのではないかと言われてきている。今の今福先生の話の中にもあったが、どのような子どもに育てたいか。今考えているようなことでいいが、もともとの基本は、日本の中の教育基本法の目的に、1つは人格の完成を目指す。2つ目が平和で民主的で、社会の一員としての形成者の資質を備えることが教育の目的というのは、人間は社会の中で集団を作り生きていく。その中で、どんな資質がいるのか。人間は社会を作るよう、社会を学んでいくように赤ちゃんから育っている。そのため表現力を増したり、自立をしたり、それは社会の一員になるため。社会脳が大きな脳を持つのは、人間が脳がどんどん大きくなったのは、比例して集団を大きくすることで脳を大きくした。集団は当然ストレスも多いし、ジレンマも多い。一人で生きるなら自分本位だが、それを集団で生きることは大変。集団が大きければよりスト

レスを受ける。しかし、その集団のストレスを乗り越えて脳を大きくした。これが例えば、個から集団に行く一つが家族、集まって社会、家族と社会は利益が反すると言われているが、それを両立できるのが靈長類。ゴリラは家族は作れるが社会は作れない。チンパンジーは、社会は作れるが家族は作れない。その力の基本は、山極さんが共感力する力と言っています。それが最初のリーダー研修の課題である、それぞれの集団です。そこには当然ストレスも、ジレンマもある。年齢を超えて性別を超えて、様々な集団です。意見の違いもある。ジレンマもストレスもあるが、これを乗り越えられるのが人間です。その一つが共感力と言われているように、変なことを言う年配者がいても、そこに共感することで違いを乗り越えられるのが、私たちホモサピエンスの力。職場では不満があって頭にくるかもしれないが、そこを乗り越えて欲しいと思います。世界の中でも、今福先生が例に出したエデュケーション2030。ジレンマや対立を乗り越える力が、子どもに必要な力と書かれている。乗り越えるというのは、それを共存していく社会を作ること。相手をやっつける社会ではない。その基礎をつくるのが、非認知能力と呼ばれているもの。そういう意味で私は、異年齢の必要性があるのは先ほど言った異年齢は、同じ発達を見るための異年齢だったが、違いをわざと作るための異年齢で、違う年齢で遊ぶときには工夫がいる。その工夫とか、小さいとか大きい子に対しての対応の仕方が、社会に出たときに意味が出てくる。子どもが少なく、兄弟が少なくなると異年齢で過ごすことが少ない。今は中々家族の中で体験できない。社会に出る時に大事。教育というと、年齢別に何かをやれるようなイメージがあるのは、小学校以降のイメージがある。指針や教育要領があるが、小学校に学習指導要領がある。そこには、学年ごとに書かれ、科目ごとに書かれています。当然、学年を構成しないといけません。教科ごとにあるので、時間割に沿って授業をしないといけない。それに対して私たちは発達の話だが、発達には連続性順序性がある。小学校に行くまでに、こういう発達を遂げさせることが目的です。卒園までに、こういう姿にしてくれということが今回の10の姿です。卒園するまでにこう育ててくださいというので、年齢別に書かれていません。これまで8つの区分で、年齢ごとに書かれていました。作った人は、一つの目安として書いたが、読む人は到達目標として読んでしまった。しかし、おむつを取るために、そこまでの発達の順序がある。発達には、順序や連続性、一人ひとりの違いがある。今回の保育指針の改定ですべて発達過程が抜けています。当然、年齢別に構成することはおかしな話だが、ヨーロッパは異年齢だが、中国や韓国シンガポールも年齢別が基本。韓国が今回より課程が改訂され、異年齢児保育が認められたと聞いている。当然ですね。年齢別は、学校ではあるまいしと思うが、私たちは今まで学校をモデルにしたり、過程をモデルにしていたが、今の話を聞いたように、社会の一員となるためには、様々ことを体験しないといけない。子ども集団を持っているのは意味がある。皆さんの中には小規模園もあると思うが、ある集団規模が必要。若い人は集団規模が大きいと嫌がり始め、個になりはじめている。イギリスがEUを離脱しようとしていたりとか、そういう意味で脳が小さくなっているのかなと思った。キャリアアップは新しい知識を学ぶことだと思います。とびとびになるが、早産児の話があって、光と音のストレスと胎内で育った中で、違うという中で、いかに環境が影響するかということ。幼児教育は環境を通して行う。そのためには、人物空間があるが、環境を通して行うこと。もう一つ食育別のセミナーをした時に、講師でイタリアンレストランのシェフを呼んで話を聞いた。園内で聞いたかもしれないが、そのレストランは懇意にしていて、そこのシェフの話で、私として感動したのが無農薬の自然食です。肉も豚肉は自然の中で育っていて、檻に入れない。愛情込めて育ててるので、自ら車に乗るそうです。豚肉を頂いたらとても美味しかった。一匹の豚が逃げて電気ショックをして乗せた。納品したら、レストランは何かおかしい、色がおかしい。電気ショック一回で肉の味が違う。いかにストレスがかかるかですね。子どもたちに怒ったりするストレスはそこに関わる、それくらい影響する。それが一つの話です。良く子どもに遊びが大事だというが、子どもの遊ぶ条件の一つに、心豊かでないと遊ばないと。もう一つ、シェフを呼んだ理由が、野球をしようとし

て大学に入ったが、シェフになりたいと思ってイタリアの店に入った。そのシェフの所で修行しようと行って、市場についていたら向こうのシェフが駆け出して、向こうでお年寄りが倒れていた。そのお年寄りを看病して、救急車を呼んで助けた。助かってよかったです。と思ったら、デッキブラシで汚物を掃除を始めた。「お前もやれ」と言われたが、汚物だらけで汚かったらしいが、美味しい料理を作れるのは、作る側の人格も関係するということです。そのへんは、科学では分からぬかも知れないが、心のストレスがいかに関係するかということで、子どもを相手にするのには伝わる話だと思います。ある意味で、人格者であろうとしないとこの仕事は難しいと思います。人格の完成を求めるためには、常に考えないといけない。不祥事や嫌なニュースがある。出来ればGTメンバーがそういうことをしないで欲しい。みんなで聖人君主になれと言わないが、人への思いやりとかを持ってほしい。具体的に影響するということが、こういう仕事の特徴だと思うし、リーダーだと思います。皆が付いていく、失敗するとか、しないではない。もう一つ質問の中で、ルールをどう教えるかがあったが、アジアのルールとヨーロッパのルールは違うと言うと語弊があるかも知れないが、園のテーマが世界の時に「頂きます」とするときに、毎月国によって大きく違う。ヨーロッパは神に感謝すること。それに対して、日本は生きるもの命に対しての感謝の気持ち。個人的には、こっちが好き。そういう意味で言った時に、ヨーロッパは、十戒といって何々をしていけないがルールだが、日本は人への思いやり配慮がルール。江戸しぐさと言われていたことがあったが、食事を出すときに関西は違うそうだが、関東ではご飯が左で味噌汁が右。これはルールではなくて、食べ手が置きやすいようにしている。食べ手が、それで食べにくかったら変えてもいい。出すときにはそう出す。すし屋も斜めに置くが、それは箸で掴みやすいようにとか、ユニクロの品ぞろえも、買う人のことを思って並べる。日本のルールは、相手への思いやりがルールになる。2歳の子にルールを教える時に、しゃだめじゃなくて、こうしたら喜ぶよと教えて欲しい。大人になると、車が乗れるようになる。全員が信号を守るからです。ルールはやりたいことを止めるわけではなく、自由にするためある。345歳になるとオセロをするようになるが、それはやる相手がルールを持つから。自分がやりたいことをやるために合意するものがルールだと思っていて、子どもたちにそういう教え方ではなくて、相手が嬉しいとかで守ればいいと思っています。それがどうしてかというと、社会の中でお互いに生きていく生き物なので、その中でルールが出来てきた。一人で無人島で暮らすのなら、ルールはいらないからですね。昔よく言っていたことが、色々な人に援助するとか、助けをするのは18ヶ月くらいからすると言われていますよね。ペンを落とすと遊んでいる子が拾ってくれるとか、この前、0歳の先生がお散歩から帰ってきて、赤ちゃんが階段をハイハイして登っていた。小さい子を先生が抱っこをしていて、よだれ掛けを落として取ってくれた時に、大げさに褒めないことです。簡単にありがとうございます。子どもは、そんなに見返りが欲しくてやっているわけではないので、大げさにするとしなくなる。子どもって、さりげなく助け合うことで、取り立てて凄いねと言わないで、取ってくれてありがとうでいいと思う。私たちが現場で思っていたことを理論づけてもらい、1つずつ納得することもあるし、すぐに分からなくても、レジュメを見て、こういうことかということがわかると思いますし、その中の実験をやってみると面白いですね。控室で、私の園で集団で、マシュマロ実験をした話をした。さっきの動画では5分間だったけど、本当は4歳は15分待たせ、食べるか食べないかということがあるが、2つ条件がある。1つは待った結果、良いことが起きないといけない。待つことでいいことが起きること。もう一つは待つ時間を指定すること。無限に待つと不安になる。どれくらい待てばいいか、うちがやった時は時計を置いて、ここまで待ちなさいとした。分かりやすいのが砂時計と言われている。落ちるまで、とすると、あとどれくらいが見えるからいいと言われているが、うちで色々実験をした時に、実験は4歳が対象だが、すぐに食べてしまう4歳がいた。それをすぐに食べてしまう3歳と一緒にしたら、3歳がすぐに食べようとするのを4歳が止めるというように、それを同年齢の集団でやったらどうか、異年齢でやったらどうか。

大人数でやつたらどうかを試してみようと思っていて、来年の保育学会で発表しようと思っている。ですから、今福先生は東京の学校にいるので、皆さんの現場と一緒に研究して、研究者の手法として研修してもらいたいと思う。それが中々結び付いていない。発達心理学というのも養成校では教えなくなった。それは、保育の心理学と変わったのは、発達心理学は1人の、個人の心理学だけれど、保育園はどこも集団があるので個人とは違うだろうと。保育の心理学と変わったにもかかわらず、同じ先生が教えていたり、教科書の背表紙が変わっただけで、中身が変わっていないことがあるが、集団の心理学は別の所があるのだろう、という所を一緒にになって研究して欲しい。自分の園でもやってみてください。集団があることが、子どもに意味があるかを保護者に伝えることです。私が伝えたい中心は、乳児からはじまるのだということ。3歳まで親の元がいいと言われていたが、勿論親はいいが、ある時間は、子ども集団に入れていくべきだと思っています。今の制度は、乳児保育は、親が働いていないと入れる施設だけで、これっておかしいと思う。子どもが、社会の一員となるためには、乳児から少しずつ集団の中で社会を学んでいくべきだと思いますので、職員一人ひとりがどうかだけでなく、一つ研究をしてみようということも、リーダーになったらしていくといいと思います。子どもに対しての驚きを監修することは、こういう保育のモチベーションになると思います。現場なので、赤ちゃんが拾ってくれることは日常かもしれません、見るたびに「こんなことができるの！？」と感動と驚きを保育の中で持ってほしいと思います。そうすると子どもがちょっといたずらしても、こういう意味があるのだろう、これをしたいからな、と少しその子の表面的な行動ではなくて、奥の意味が分かるのが経験者だと思います。ですから、質問の中で、行事のリーダーが2年目の職員と言っているが、そこには必ず経験者が付きます。クラスもそうだが、そこには一人はその行事を受け持った人が必ず付きます。そして、ベテランがいて、ただし、表で仕切っていくのは2年目の若い人が仕切っていて、発案は若い人で、実行をするのはベテランがします。先にベテランが発案はしません。最初、突拍子もないアイデアが出ることもあるが、何とか実現するのがベテランです。行事にもベテランが付いています。それが質問の中にありました。保育環境の中で、家具の色をどうするか？といった時に、私の園では装飾や何も、担任が年齢ごとにあるが、担任が自分のクラスを装飾することを乗り越えます。すべての園の中の考え方です。職員に有難く思うのが、先月職員が産休や休みで、一人書類上足りなかった時に、職員会議やベテランが話し合って、「職員が足りないから、一人採用してください」ではなくて、「2歳がクラスが、3になりかけているので、2歳を一人減らして345歳に廻っていいですか？」と言いに来た。2歳ずっと担任していたので、その先生も外れるのも嫌だろうと思うし、親もどう思うかがあるが、私の園はもともと、全部の園の担任というのであるので、クラスから外れても親もあまり騒がない。自分のクラスだけを騒ぎません。足りない時に、自分のクラスだけで頑張ろうではなくて、足りないけど、どこが余分なのかを全体で見る。それを見るのがリーダーの役割で、解決するときに狭く解決しない。広く全体で家具もクラスの家具が余っているからこうしようとか、クラスだけで模様を変えをしない。全体で作っていくようにして、子どもを中心に考える。それが固定担任を失くす、担任はいるけど、担任だけがクラスだけをかこつたりする意識ではないことです。質問の中に地域の参画があったが、これから時代は、参画が課題になってきます。地域の人の参加ではなくて、計画も一緒にする。ただうちの園の地域はちょっと違うのが、地域担当の職員がいるが、基本的にこちらから呼びかけません。何故かというと、差し出がましいことはしないで、地域が困ったら、うちでいいですよと言っている。神輿の担ぎ手がいないと言われたら、うちが行きますという風にしています。うちからこういうことをしませんか？とはしていないです。地域は地域のものなので、こちらから企画するものではないので、例えば祭りの時に、盆踊りで、「何で、せいがばかりだと」言わされたことだったので、「うちはいいです、他の園が必要であればそちらに出てください」と言ったら、一人も参加者がいなかった。文句だけ言って、やるかといったらやらない。次の年から協賛でうちの園が載った。地域が困

っていることや、子どもに関して知恵がない時にいつでも助ける用意がある。子どもとの保育と同じで、愛着で負の状態の時に、いつでも助ける用意がありますよ、色々な人が居るということだと思いますね。地域との付き合いをそうしているので、有難いのはうちの園の保護者会がそうしてくれます。その変わり園が困ったことを言ってくる。今回無償化になって、保護者たちが「私たちの負担が減った分だけ、園に寄付しましょうか?」と園をフォローしてくれようとしてくれます。お互いが干渉しあわず、困った時だけ助け合う距離感を持っている。多くの質問は今福先生の話で解決したと思います。皆さん最初に言ったように、一つの集団を作る中で、ストレスもあるし色々な人が居ます。力があるだけの人とは限りません。しかし、そういう多様性を乗り越えて、一つの目的を作っていくのは大変だけれど、していかないといけないですね。それを排除してもいけないし、迎合してもいけないし、これからの時代は極端な人とも共存していかないといけない。合意できる到着点を共に考える世の中にならないといけない。相手を脅かしたりして解決することではないと思います。せめて文化の面では揉めている国もあるが、見学に来たいといってくるときはG T園で受け入れてくれました、今この状況でどこも受け入れてくれないので受け入れてくれたとか、来月大学から講演を依頼されている。偏見を持たないで、お互いが困っている人が居たら、助ける姿を子どもに見せてあげないなと思う。日々大変なこともあると思うが、これだけの仲間がいるので、日程が取れなくても皆さんのところへ行きますので、子どもにとっていい保育をしていけたらと思います。大学の先生たちも研究できたらいいと思っていますので、役員会に出て、研修をどうしようとなったら、今福先生を紹介するといいと思います。私たちの考えが広がっていくことを願っています。明日園に来られる方はお待ちしています、今回のセミナーはこれで終わりになります、ありがとうございました。

本稿は、2019年11月12日に行われた第15回見守るリーダー研修の「まとめ」の内容です。

(文責/奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行:株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、

QRコードからお願いします。/